

薬害のない明るい未来へ！



8月24日は、

薬害根絶デー

薬害イレッサを解決して、薬害の連鎖を断ち切ろう！
薬事行政を監視する第三者機関を実現させよう！

開催日：2011年8月24日（水）



厚労省内の「誓いの碑」

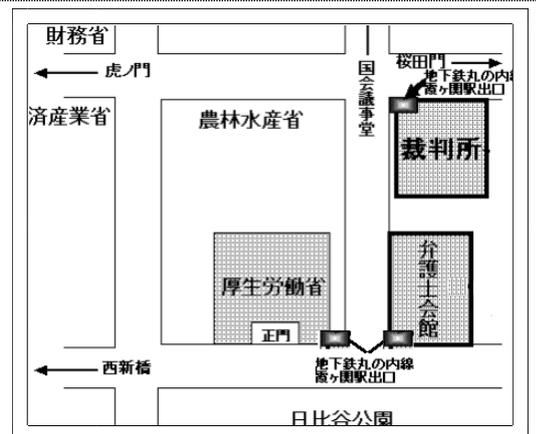
当日の行動（予定）

- 11:45～12:55 厚労省前リレートーク
- 13:00～13:15 厚労省前庭・碑の前行動
- 13:30～14:00 パレード
- 15:00～17:00 集会（弁護士会館2階クレオ）
- 17:30～18:30 街頭宣伝活動

薬害イレッサ訴訟では、国、企業の責任を認めた判決が下されており、早期の全面解決が求められます。また、抗がん剤での副作用被害救済制度の創設など、がん患者が安心して医療を受ける体制づくりが求められます。薬害の連鎖を断ち切るために、薬害肝炎の検証会議で提言された医薬品行政を監視する第三者機関の実現が必要不可欠です。



薬害オンブズパースンマスコット「カナリアン」



[最寄り駅] 霞ヶ関駅B3出口（厚労省）
B1出口（弁護士会館）
（東京メトロ丸ノ内線・日比谷線・千代田線）

薬害根絶デー実行委員会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-11-12
岩下ビル4階 オアシス法律事務所内
TEL03-5363-0138 FAX03-5363-0139

☆カンパにご協力下さい☆

東京都民銀行東新宿支店 普通 4033589
薬害根絶デー実行委員会会計 中川素充
（なかがわもとみつ）

こんなにあった日本の薬害

これまでに起きた薬害事件を一部紹介します。

1956年 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961年 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもったこどもが産まれた。被害児は世界で数千人、日本で約千人。レントツ博士（ドイツ）の警告にもかかわらず、日本では警告後9カ間も販売を継続させた。

1965年 アンブル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者が多発し発売中止に

1970年 スモン

60年代から下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約1万2000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売された。

1971年 クロロキン

抗マラリア薬による視力障害。
被害者千人以上。

1983年 薬害エイズ

HIV（エイズウイルス）に汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者等約1800人がHIVに感染。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化されたが、日本では85年まで危険な非加熱製剤が使用され続けた。

1988年 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重篤な障害を残す被害が続いた。医療機関に対する危険性の情報伝達が不十分で、安易に計画分娩をすすめたことが原因。

1989年 MMRワクチン

新3種混合ワクチンにより死亡者や重篤な障害が発生

1993年 ソリブジン

抗がん剤との併用で死亡者多数

1996年 薬害ヤコブ病

脳外科手術で使用したドイツ製のヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。アメリカでは87年に輸入を禁止。日本での使用禁止は10年遅れの1997年。

2002年 薬害肝炎

出産や手術などの際に止血目的などでHCV（C型肝炎ウイルス）に汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、多数の人（少なくとも1万人以上）がHCVに感染。被害者・遺族が2002年以降、全国5地裁で提訴し、判決を経て、2008年に国・製薬企業と基本合意。

2002年 薬害イレッサ

肺がん治療薬、申請後僅か5ヶ月で承認され、「夢の新薬」などと言われたものの、発売直後から間質性肺炎の副作用による死亡が多発した。他方で、市販後の第Ⅲ相臨床試験では相次いで延命効果の証明に失敗。被害者・遺族が2004年に提訴。

2006年 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬タミフルを服用した後、飛び降りなど異常行動や突然死で死亡。2007年、10代の子どもには使用禁止に。

薬害のない明るい未来へ